

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課： 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	一般国道1号 伊豆縦貫自動車道 いずしゅうかんじょうしやどうろ ひがしするがわんかんじょうどうろ 東駿河湾環状道路			事業 区分	一般国道	事業 主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自: 静岡県沼津市岡宮 ぬまつ おかのみや 至: 静岡県田方郡函南町平井 たがた かななみ ひらい					延長	15.0km
事業概要							
一般国道1号東駿河湾環状道路は、静岡県沼津市岡宮を起点とし、田方郡函南町平井に至る延長15.0kmの自動車専用道路で、伊豆縦貫自動車道と一体となり高速道路ネットワークを形成する道路である。 伊豆縦貫自動車道は、東名高速道路及び新東名高速道路と接続して伊豆地域へ高速サービスの提供及び都市圏における交通渋滞の緩和を図り、観光資源に恵まれた伊豆地域の活性化に寄与する。また、災害時の緊急輸送路の機能強化や、医療活動の支援など、地域の安全安心にとって重要な役割を果たす。							
S63年度事業化		S62年度、H6年度 都市計画決定		H1年度用地着手		H7年度工事着手	
全体事業費		2,520億円	事業進捗率 (令和6年3月末時点)	約92%	供用済延長	13.1km	
計画交通量		38,500台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 2,258/9,035億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 2,893/10,950億円		基準年
	1.2 (1.3)	4.8% (5.0%)	事業費: 2,126/8,517億円		走行時間短縮便益: 2,593/9,578億円		令和6年
	1.7 (1.7) [2%]		維持管理費: 131/398億円		走行経費減少便益: 253/1,087億円		
	2.1 (2.0) [1%]		更新費: 0.83/120億円		交通事故減少便益: 47/285億円		
	(残事業)	(残事業)	感度分析	(事業全体)		(残事業)	
1.3 (5.3)	交通量	B/C=1.1~1.3(±10%)		交通量	B/C=1.2~1.4(±10%)		
1.9 (7.5) [2%]	事業費	B/C=1.2~1.2(±10%)		事業費	B/C=1.2~1.4(±10%)		
2.3 (9.0) [1%]	事業期間	B/C=1.2~1.2(±20%)	事業期間	B/C=1.2~1.4(±20%)			
事業の効果等							
①円滑なモビリティの確保							
・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。							
・並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の混雑時旅行速度が改善する。							
・利便性の向上が期待できるバス路線(東海バス、伊豆箱根バス)が存在する。							
・新幹線駅(JR三島駅)へのアクセス向上が見込まれる。							
②物流効率化の支援							
・農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる。							
③都市の再生							
・都市再生プロジェクト(函南町第2期都市再生整備計画)を支援する。							
・市街地再開発(沼津駅周辺総合整備事業、三島駅南口(東街区・西街区)再開発事業)と連携する。							
④国土・地域ネットワークの構築							
・当該路線が新たに拠点都市間(沼津市、三島市)を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する。							
・日常活動圏中心都市(沼津IC~下田市)へのアクセス向上が見込まれる。							
⑤個性ある地域の形成							
・拠点開発プロジェクト、(富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)構想)を支援する。							
・主要な観光地(下田市、南伊豆町などの南伊豆地域)へのアクセス向上が期待できる。							
⑥安全で安心できるくらしの確保							
・三次医療施設(順天堂大学医学部附属静岡病院)へのアクセス向上が見込まれる。							
⑦安全な生活環境の確保							
・並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間【国道1号(塚原新田交差点、谷田交差点等)】において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる。							
⑧災害への備え							
・第1次緊急輸送道路(静岡県緊急輸送路: 静岡県交通基盤部)として位置づけられている。							
⑨地球環境の保全							
・CO2排出量の削減が見込まれる。							

⑩生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。	
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・伊豆縦貫自動車道路建設促進期成同盟会、伊豆縦貫自動車道路建設推進期成同盟会、東駿河湾環状道路整備促進期成同盟会等より伊豆縦貫自動車道の早期整備の要望を受けている。 静岡県知事の意見： ・対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。 ・伊豆縦貫自動車道は新東名、東名から、伊豆半島南部までを結ぶ高規格道路であり、日常生活や観光、産業活動の交通手段を自動車に大きく依存している伊豆地域において、「経済の好循環」、「災害時の救援活動等の支援」、「救急搬送等の医療活動の支援」など、様々な効果が期待され、伊豆地域全体の発展と安全・安心に寄与する重要な事業です。 ・今後も、事業効果の早期発現が図られるよう、必要な予算の確保やコスト縮減の徹底、安全な工事施工に努め、事業を推進するようお願いします。 ・また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き本県や関係者と十分な調整をお願いします。	
事業評価監視委員会の意見 ・「事業継続」することは「妥当」である。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・伊豆半島の玄関口にある主要観光施設では、入り込み客数が増加。伊豆半島の中・南部では令和2年度に新型コロナウイルスによる入込客数の減少があったが以降は令和5年にかけて回復傾向。 ・伊豆の国市の「韮山反射炉」が平成27年7月に世界遺産登録。 ・伊豆市の「伊豆ベロドローム」において、2020年東京オリンピック、パラリンピックの競技開催地に決定。	
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率は約92%、用地取得率は約88%に至っている。（令和6年3月末時点）	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・大場・函南IC～函南IC（仮称）間（延長1.9km）は、周辺道路の整備状況や関係機関との調整状況を踏まえつつ、調査設計を実施。	
施設の構造や工法の変更等 ・舗装工事では、ICT建設機械を活用し、3次元計測技術を用いて、丁張設置省略や出来形検査帳票の自動作成により出来形管理の省力化・省人化を図っている。 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由 ・以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。	

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、沼津岡宮IC～下田IC(仮称)を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。